

The Mission To America



聖フィリピン・デュシェーン

1769年8月29日

フランス

グルノーブル

に誕生。

フィリピン

生家



4 Grand Rue.





幼いころから、小さき人々への
優しいまなざしを持っていました。

貧しい人に自分のお小遣いを
あげるフィリピン

聖歌を歌う少女時代の
フィリピン



サン・マリードンオウで
シスターとしての生活が
始まりました。







病人を見舞う
フィリピン

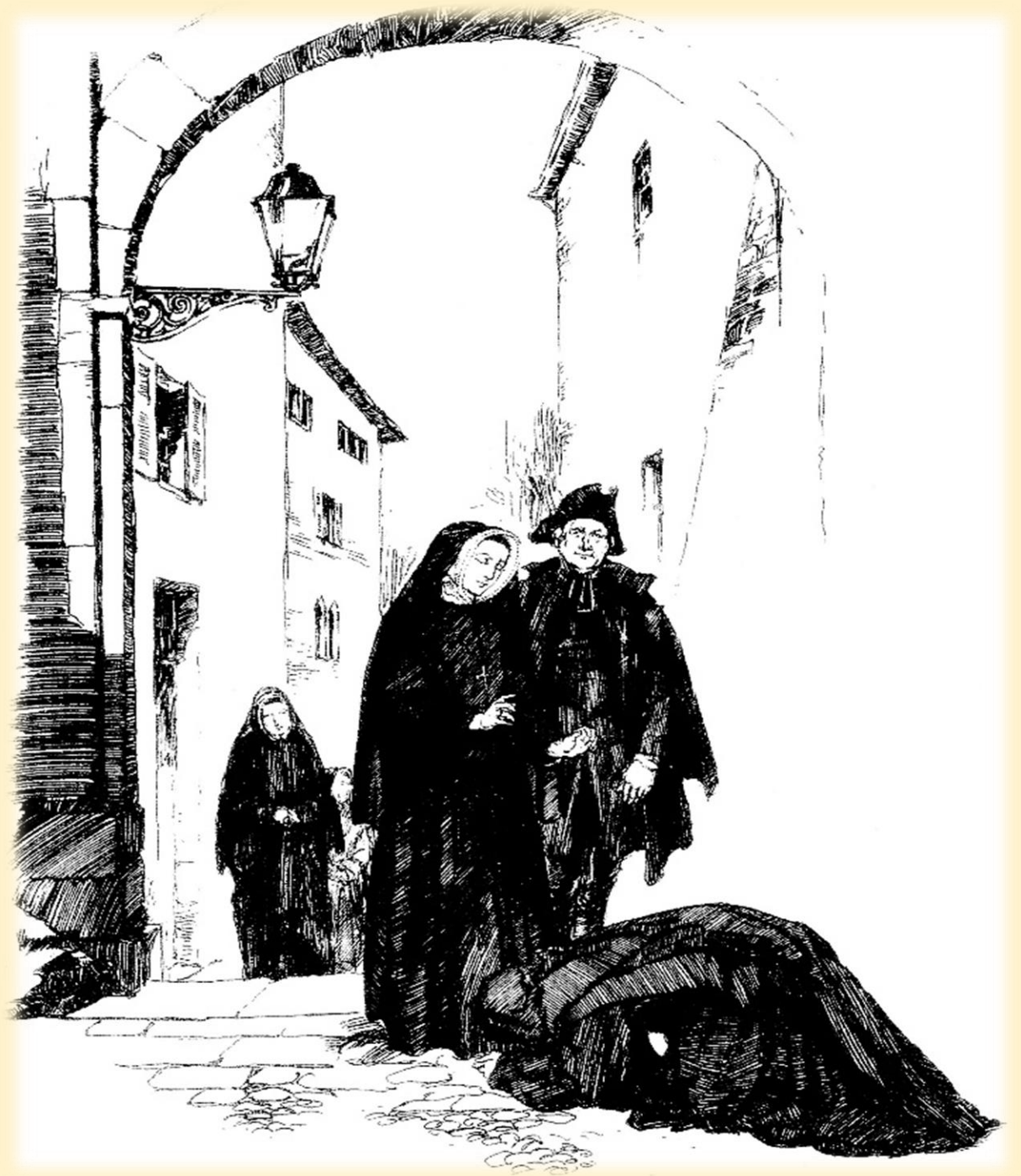


革命の嵐が吹き荒れるなかでも、
弱い人、苦しむ人に寄りそいつづけました。
貧しい子どもたちに神様のお話をするフィリピン

サンマリ・ドンオウへ帰還。
修道院の再建を
ひとり目指しました。



マザーバラとの出会い。
ひざまづいてソフィーを
迎えるフィリピン





「玄関まで行くと、まだドアが開ききらないうちに誰かが走り、わたしの足元にひれ伏しました。まだ20代初めだった私がどんなに驚いたことか・・・。」（ソフィー・バラ）

「いかに美しいことか。

山々を歩き巡り良い知らせを伝える者の足は。」

（イザヤ52.7）



2人は、すぐに心がぴったり合ったのでした。

フィリピンは、マザーバラの深い愛と
優しい心、すぐわかって下さる賢さを…

マザーバラは、フィリピンの我慢強さと
希望の広さ、物事を最後までやりとげる
意志の力を…



アメリカから帰った
ブーレ司教を訪問。

「わたしを行かせてください。」



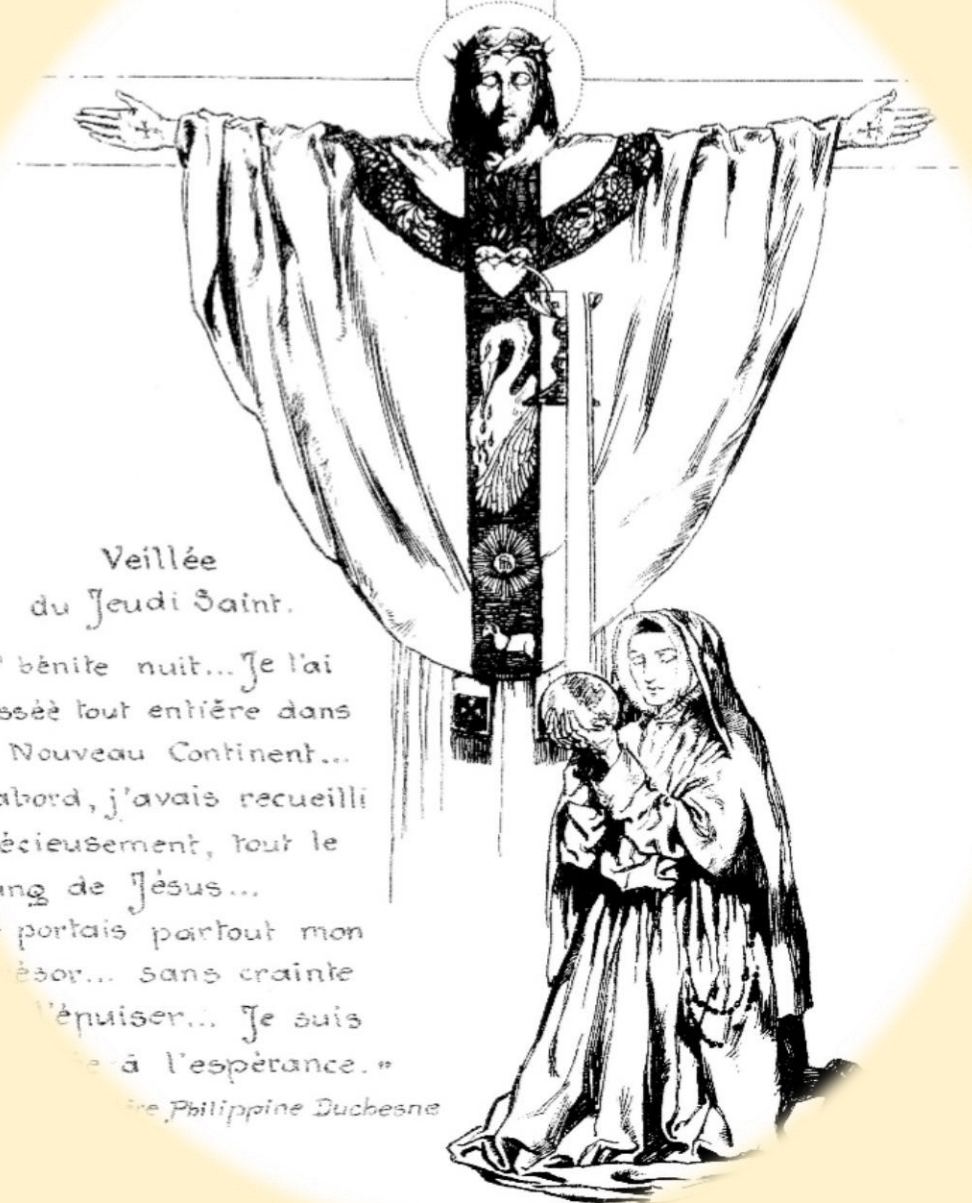
「『あなたを送り出します』といわれたら『即座に行きます』と応えます。」



「これが神さまのお望みであるなら、あなたの願いを聞きいれます。」

海を渡って、新大陸へ
イエズスの聖心を
伝えにいきたいと祈る
フィリピン。

「これからの旅路も、試練も、
どんなことがあるうとも、
神さまがきっと守ってくださると
信じています。」



Veillée
du Jeudi Saint.

" Ô bénite nuit... Je l'ai
passée tout entière dans
le Nouveau Continent...
D'abord, j'avais recueilli
précieusement, tout le
Sang de Jésus...

Je portais partout mon
trésor... sans crainte
de l'épuiser... Je suis
restée à l'espérance."

Philippe Duchesne

1818年3月21日 いよいよ、アメリカへ
レベッカ号にて出航。



70日間、海と空しか見えませんでした。……

「イタ・パーテル

（神の御心のままに）」

「神よ、私はあなたのために
全てを捨て去りました。」

この2つの祈りを繰り返す
ことしかできませんでした。





1818年5月29日（聖心の祝日）
アメリカに上陸。
ひざまずいて、地にキスをする
フィリピン。

セントチャールズ
最初の家



新しい文化の中での孤独

語学の才能に恵まれなかった
フィリピンにとって、
英語は生涯をとおして
重荷でした…



生活の糧は、
生徒たちのお月謝だけ…

「あまりに寒くて、
火のそばの水も氷になり
干しておいた洗濯物も
凍ってしまいます…」



不思議なことに、
学校で教室が足りないとか、
物が足りないとか、
色々難しいことがあればあるほど、
シスターになりたい人たちが
増えていきました。





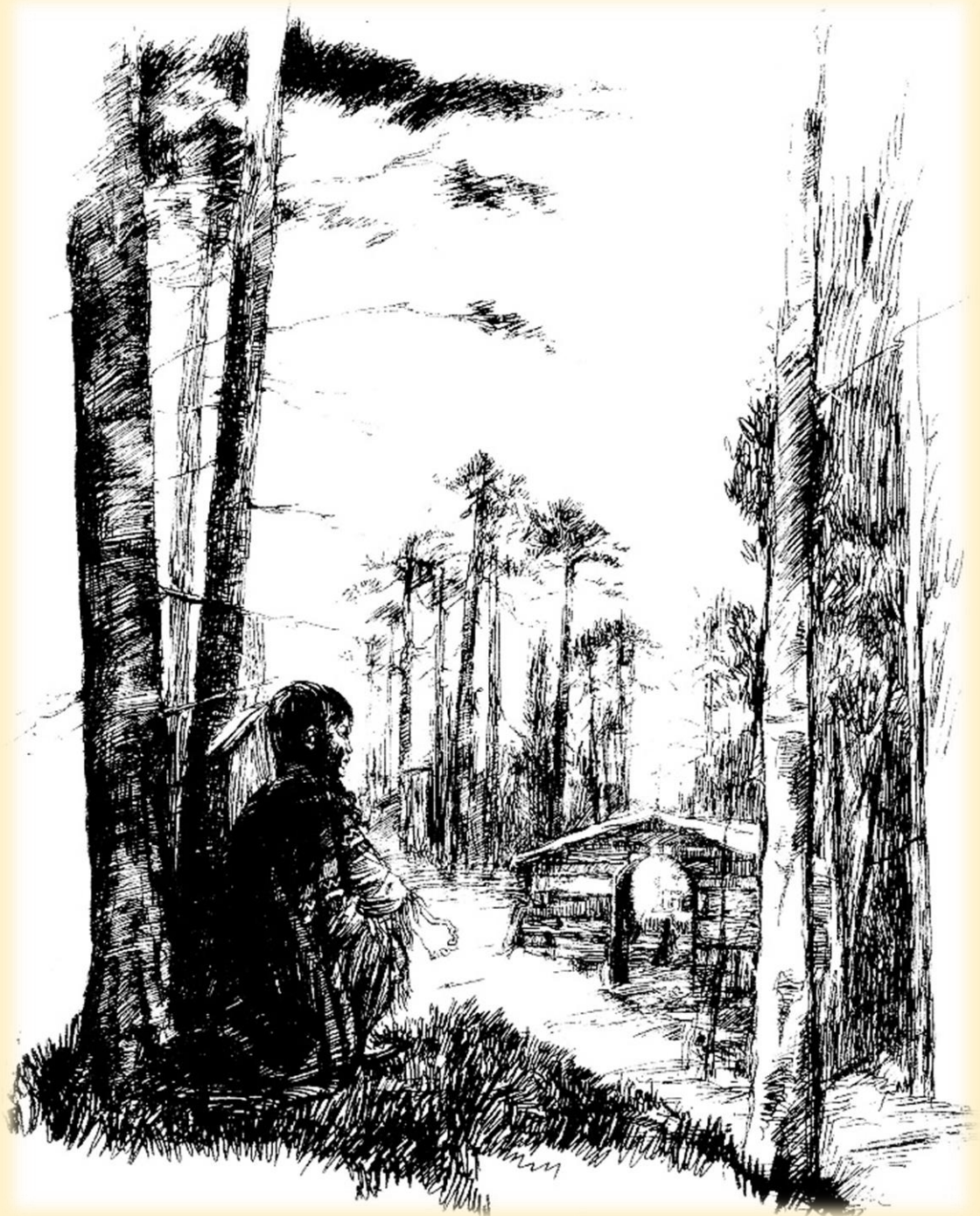
開拓地での日課は、
たった一頭の牛の世話を
して牛小屋を掃除を
することでした。

フィリピンが愛した
フロリサン





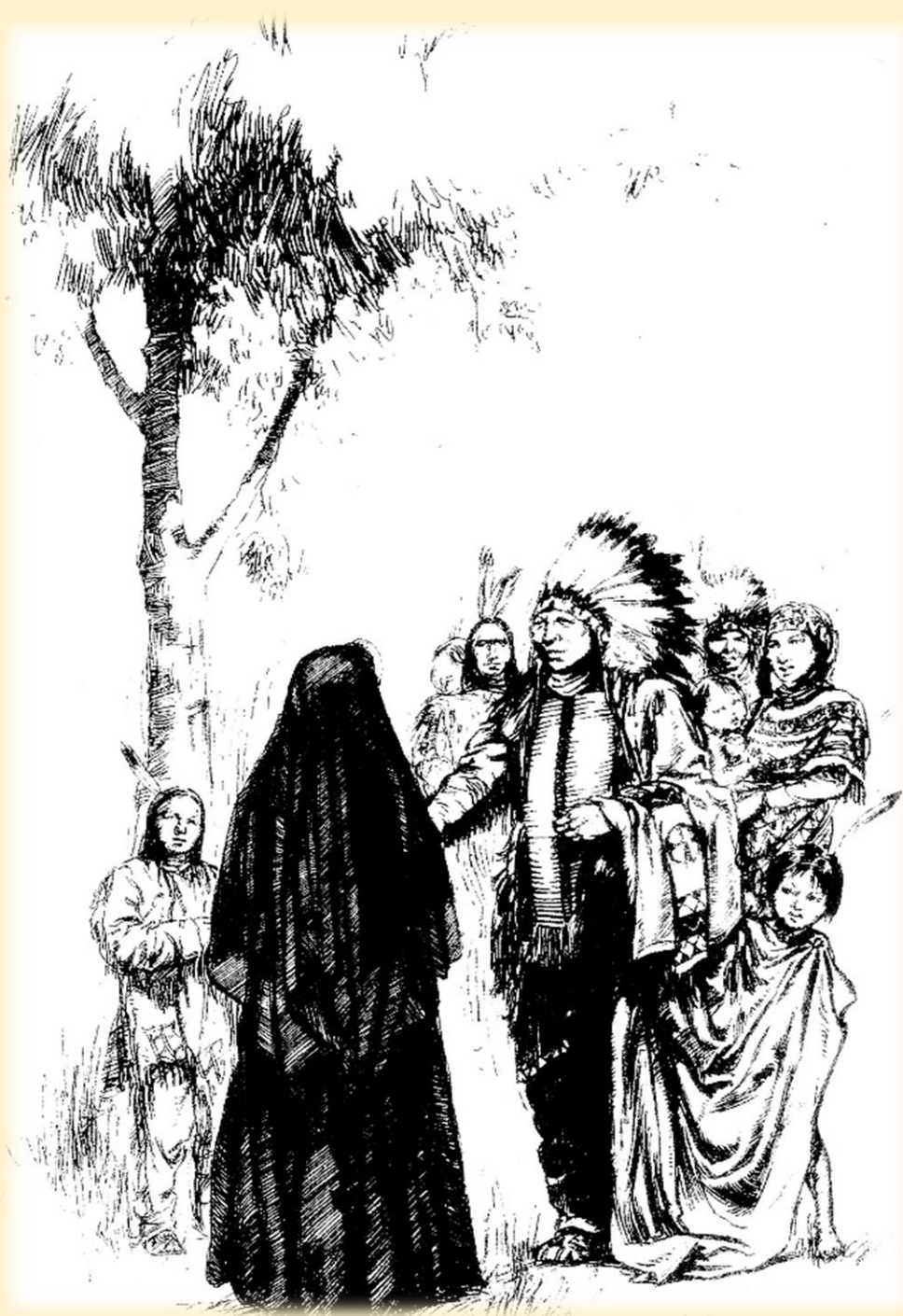
フィリピンが
祈りに、
物書きに、
手仕事に、
いつも座っていた椅子



71才、
長年の夢がかなって
ようやく、先住民の町へ。

シュガークリーク
草原





ポトワトミ族を訪問。
歓迎をうけるフィリピン。

言葉は通じなくても、
こころの言葉で語り、祈り、
イエズスの聖心を伝えました。



フィリピンが
ポトワトミ族から
贈られたマリア像





セントチャールズ
フィリピンが最期を
すごした部屋





1852年11月18日 83才 昇天

フィリピンは
いつも一生懸命、
祈っていました。
共にいてくださる神さまに
問いかけていました。



大切なことを決めるときには、
いつも祈ってから決めていました。

神さまのお考えと合わないことは
したくなかったのです。

きっと、自分のエゴで決めても、
何もうまくいかないことを
知っていたのでしょう。



私たちも、
自分の力だけでは不安な時や、
自分の考えにとらわれそうな時、
少しのあいだ、祈ってみましょう。



思うようにことが進まないなかでも
常に祈り、
小さな行いを積み重ねていくことが
できますように。
神さま、どうぞ、私たちにも
フィリピンと同じ勇気を
お与えください。



神さま、私たちが、
だれに対しても、
愛を与えるものと
なれますように
どうぞお導きください。





【参考資料】

キャサリン・ムーニー著、山口晶子訳(2000)『フィリピン・デュシェーン 貧しい人々と共に歩んだ女性』 聖心会
※MOONEY(第一版1990)の邦訳

Karen Olson, RSCJ “Saint Rose Philippine Duchesne/A Dream come true”
Create Space Independent Publishing Platform; 1 edition (September 16, 2017)

列聖の記念誌 『聖フィリピン・デュシェーン』1988年7月3日

* 子ども向けに作った、フィリピン・デュシェーンの生涯を冊子にまとめたもの
姉妹校の宗教科担当シスターによる手作りの教材と思われる
聖心会 みこころセンター、聖心女子学院初等科宗教科所蔵

『聖ローズ・フィリピン・デュシェーン 新世界への出発 200年祝 月曜日の世界各地で活動する聖心会会員による省察』日本聖心同窓会(JASH) 訳 2019年

* 上記の資料は200年のお祝いの1年に渡り聖心会のシスターズによる毎週の省察(英語)で、
JASHがこれらをまとめ、日本語訳とその英語本文を付けたもの

* この資料で使用している白黒の絵は聖心会アーカイブから提供されたハガキを使用しています

制作 聖心会 みこころセンター

2019年10月23日